

行雲流水

No.283 令和5年4月12日発行

袖振り合うも・・・

校長 寒河江 正人

一言御礼申し上げます。

今般の新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応措置に伴い、酒席を自粛しているなか、先週7日の「**歓迎昼食会**」、ありがとうございました。**心温まる楽しいひととき**でした。準備をしてくださった3学年幹事の皆様を始め、転入者を温かく迎えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

さて、「**袖振り合うも他生の縁**」と申します。

たまたますれ違ったあの人もこの人も、全く無縁の他人ではないと私は考えています。

どの人も、みんな自分と目には見えない「**つながり**」をもった大切な人ばかりであり、だから出会って頭を下げ、笑顔を交わし、心温まる気持ちで接したい。
そうした「**教えを込めた言葉**」なのだと思います。

それは、決して「理屈」なのではない、「**無数の先人の貴重な体験の積み重ね**」が、そこににじみ出ているのだと私は感じます。

最初は、虚勢を張って無駄に肩をいからせたり、いたずらに言葉がとげとげしくなったり、意味もなく心が乱れたりすることが、誰しもあるものです。

しかし、「**他生の縁**」を信じるしみじみとした優しく温かな思いは、必ず相手に染みとおり、**またそれが我が身にも返って、やがてお互いに気持ちが通い合う**のだと私は信じています。

通りすがりの人にだけではありません。同じ国、同じ町、同じコミュニティの人にだけではありません。

「**他生の縁**」を信じようとするその「**豊かな思いの波紋**」を広げてゆけば、言葉を越えて、思想を越えて、国境を越えて、世界の果ての人々にまで、その思いは限りなく広く及んでいくものであろうと信じ、願って、これから出会う生徒たちにも伝えていきたいと思います。

「**袖振り合うも・・・**。」出会いは、お互いにこんな思いで、**素直に**心を通い合わせたい。すでに袖ふれ合った人にも、いまだ袖振り合わぬ人にも・・・。